

4 平成29年度 協働事業の概要 No 1

1 事業名 : 地域の防災意識を高める気仙沼高校生との交流事業

2 実施団体名 : やかげ小中高こども連合

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課

4 事業目的・概要

岡山県は、災害が少なく防災意識が低いと言われている。岡山県の高校生と東日本大震災の被災地である気仙沼の高校生等との交流を通して、若者の防災意識を高め、若手防災リーダーを育成するとともに、地域への防災意識の高揚を働きかける。

5 事業の流れ等

(1) 気仙沼訪問

震災に関わる活動を行っている人や地元の高校生などから、震災の状況、これまで取り組んできたこと、今考えていることや今後の目標などの話を聞いたり、意見交換を行ったりした。

日時：平成29年12月23日～26日

参加者：高校生3名

(2) 報告会等

気仙沼を訪問して気がついたこと、伝えたいこと、今後取り組んでみたいことなどの報告をした。

防災講演会での報告ポスターの展示（やかげ文化センター 2月17日）

報告会（矢掛町農村環境改善センター 3月18日）

6 成果・効果

災害が起きたとき、何をすべきかを学ぶことができた。また、若者が災害時や地域での活動で何をすることができるのかを考え、新たな取り組みを始めるきっかけとなった。

7 今後の課題・展開等

気仙沼訪問が12月になったため、訪問で得たことを同年代の者や地域の人々へ伝える場が十分なかったため、今後、様々な機会、場所でいろんな人に今回経験したことを伝えていき、防災や地域での活動の輪を広めていく。

8 県民局が協働した効果及び課題

気仙沼訪問が遅れたことにより、事業実施期間内では成果報告を様々な場所
 でしていただくことができなかった。防災意識の高揚を図るため、今回の事業
 の成果を一過性のものとせず、今後も広く普及させていくため、団体と協力し
 若者が防災について伝える機会を設けることについて考えていく必要がある。

9 実施状況

	
震災復興語り部の話をきく	リアスアーク美術館震災関連資料室
	
「NPO底上げ」の高校生の活動	気仙沼の高校生との交流
	
報告ポスターの展示	報告会

4 平成29年度 協働事業の概要 No.2

1 事業名 : 「地域で、チームで、長い目で」学童保育と作業療法士の連携で安心の子育てを

2 実施団体名 : 岡山県学童保育連絡協議会

3 協働担当課 : 健康福祉部福祉振興課障害福祉・保護班

4 事業目的・概要

・目的

学童保育と作業療法士が連携することで、発達障害児や、診断が出るまでには至っていないが発達の偏りで困難を抱えている子ども達、保護者、保育にあたる指導員を支援する。併せて、「発達領域」に携わる作業療法士（以下「OT」という。）を養成する。

・概要

平成28年度採択された「地域で、チームで、長い目で」事業は、県内はもとより、全国各地から大きな注目を集めた。一方、「発達障害領域のOT」の数の少なさという課題も明らかとなった。よって平成29年度は、前年度試行で最も効果のあったOTの継続訪問数を増やして、実践の積上げを図るとともに、その効果測定を行い、解決策を模索する。

(1) OTによる継続した学童保育の訪問指導（コンサル）の拡大

- ・学童保育の指導員のスキルアップや発達領域のOTの育成
- ・専門家による訪問指導の客観的効果測定

(2) OTの視点による指導員向け講座

- ・発達障害児支援入門講座（1日コース 2回実施）
- ・作業療法的視点で対応できる中堅指導員養成講座（3回連続講座）

(3) アドバイザー会議

- ・専門家を座長とする有識者7名会議（2回）
- ・事業での実例報告や課題の掘り起こし

(4) 啓発冊子の発行

- ・事業の実例や効果測定結果等

5 事業の流れ等

(1) OTによる継続した学童保育の訪問指導（コンサル）

ア 訪問指導（コンサル）

倉敷市4、総社市2、高梁市2、浅口市2の合計10クラブに対し、指導OT1名＋育成OT1～2名で各クラブを3回訪問した。

イ 効果測定

専門家（川崎リハビリテーション学院 森川芳彦 講師）が学童保育の訪問指導（コンサル）に帯同し、調査結果をもとに効果測定を行った。

(2) 作業療法士の視点による指導員向け講座

ア 発達障害児支援入門講座

①A（1日コース）

- ・期 日 平成29年9月10日（日）
- ・場 所 ライフパーク倉敷 中ホール
- ・講 師 白鳳短期大学総合人間学科 講師 高畑脩平
- ・参加数 70名

②B（1日コース）

- ・期 日 平成29年11月23日（木）
- ・場 所 ライフパーク倉敷 中ホール
- ・講 師 川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンタ

ー

OT 吉村 学・花岡 彩

- ・参加数 47名

イ 作業療法的視点で対応できる中堅指導員養成（3回連続講座）

（場 所：全回 倉敷市 二福のびのびクラブ）

（テーマ：作業療法士による発達障害児支援）

① 第1回

- ・期 日 平成29年12月6日（水）
- ・講 師 倉敷成人病センター OT 河本聡志
- ・参加数 60名

② 第2回

- ・期 日 平成30年1月24日（水）
- ・講 師 倉敷中央病院 OT 佐伯麻衣・田中俊祐
- ・参加数 73名

③ 第3回

- ・期 日 平成30年2月7日（水）
- ・講 師 川崎医療福祉大学 OT 大野宏明

・参加数 76名

(3) アドバイザー会議 委員7名

委員 座長 小林隆司（首都大学東京大学院人間健康科学研究科
作業療法科学域教授）

檜原伸二（岡山県作業療法士会 会長）

森川芳彦（川崎リハビリテーション学院 講師）

河本聡志（倉敷成人病センター OT）

三宅誠一（（有）ヒロシゲ文庫 代表取締役）

青野雅世（オレンジクローバー 保護者支援者）

宇野京子（（株）ハートスイッチ就労支援コンサル
タント）

① 第1回

・期 日 平成29年6月23日（金）

・場 所 倉敷市民会館 会議室

・参加者 委員6名 学童保育関係者4名

② 第2回

・期 日 平成29年11月27日（月）

・場 所 岡山県学童保育連絡協議会（倉敷市中島）

・参加者 委員4名 学童保育関係者2名

岡山県備中県民局職員1名

(4) 啓発冊子の発行

事業で得られた事例や専門家による効果測定による結果を冊子
にまとめて情報発信した。

6 成果・効果

(1) 訪問コンサルの実施地域の拡大ができた。（地域で）

ア 6月に管内各市町の学童保育担当者に向けて説明会を実施した
ところ、昨年実施した倉敷市に加え、総社市や高梁市、浅口市か
らも実施希望があり、地域、クラブともに拡大した。

イ OTが発達障害児の支援ができる専門職であることが、備中県
民局管内ではかなり浸透してきた。

(2) 学童保育での発達障害児支援スキルが向上した。（チームで）

ア 「作業療法士」という専門職が入ることで、これまで指導員が
経験的に蓄積してきた発達障害児の対応を言語化することができ
た。

イ 各研修・講座で「作業療法的視点」の理解が深まってきた。

1 日入門講座では、グループでのカンファレンスも経験でき、指導員のチーム力を上げるのに役立った。

中堅向け講座では、子どもの領域だけでなく、医療や精神科の領域の OT からの話も組み込まれ、広く長い目で子ども達を見る視点を学ぶことができた。

ウ 専門家による調査研究により、子どもの変化、指導員への効果が明らかになった。

【概要】

コンサルしたうちの 4 クラブ（6 ヶ月間に 3 回訪問）に協力依頼。研究対象の児童は 15 名（男児 13 名、女児 2 名）。対象児は 1～4 年生で、自閉症スペクトラムなどの発達障害の診断を受けた子ども、又は発達に遅れの疑いがある子どもであった。OT が初回訪問時に支援員から対象児の困りごとを聞き、情報収集を行い、対象児を観察アセスメントし、6 ヶ月後、初期時と同様の指標を用いて再評価を行った。指導員の感想として、「子どもの行動の理由を知ることができた。」、「様々な支援方法を具体的に知ることができた。」など肯定的な感想が多かった。OT による子どもの特性や行動の原因についての理解の促しや、関わりや活動の意味付け、OT と指導員による対象児の目標立て、その目標の指導員間での共有による余裕、環境設定の工夫の実践により、対象児の不安が減少し、安心できる居場所ができ、問題行動が軽減したと考える。児童クラブにおいて OT によるコンサルテーションを行うことは、ある一定の効果があったと考えられる。

（3）「発達障害児」の支援ができる OT の育成が始まった。（チームで）

育成 OT としてコンサルに同行し、報告書を書くことを継続することで、「発達障害児」支援のできる OT としての力が付いてきた。

（4）行政や他団体との連携が進んだ。（チームで、長い目で）

本事業の実施に当たり、備中県民局管内の市町や県作業療法士会との連携ができた。また、日本作業療法士協会にも訪問し、本事業の報告を行った。

（5）全国へ発信

本事業について、県内外の議員や学童保育関係者、OT の関心は高く、視察や、事業に関わる OT、指導員等への講師依頼も数多くあった。

7 今後の課題・展開等

「学童保育と作業療法士の連携」を長い目で見ていくため、保育園、小中学校、放課後デイサービス等、関係機関との連携の強化を目指したい。また、協働事業の終了後を見据え、事業の自立化や行政による制度化を目指して、行政や議会等にも関心を持ってもらえるよう展開していきたい。

8 県民局が協働した効果及び課題

県民局という広域を対象としたため、2年にして4市での事業展開が実現した。県の補助・後ろ盾があるという事実が、事業の展開をスムーズにしたと思える。

9 実施状況

	
アドバイザー会議	訪問指導（コンサル）
	
発達障害児入門講座	発達障害児入門講座



中堅指導員講座



報告冊子

- 1 事業名 : 星空とヒトを繋ぐプロジェクト
- 2 実施団体名 : ir.bisei
- 3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課市町村連携班

4 事業目的・概要

・目的

星空をテーマにした美星の魅力発信により、地域づくりの輪を広げる。

・概要

美星及び近隣地域の住民が、国内外で活躍する建築家 落合守征氏との協働で、星・月・風景の撮影スポットに設置する「星を見上げる装置（以下、「装置」という。）」を作成し、美星を訪れた人が「装置」を使って撮影した星空写真をSNS等で拡散させて、美星の魅力発信者となる。

また、ir.bisei のサイトに投稿された星空写真に魅力的な動きを加えてWEB上で展開させることにより、多くの人が「わたしの特別な場所・美星」として美星に愛着をもち、美星を訪れ、美星の文化に関わることができる多様な交流を生み出す仕組みをつくる。

更に、倉敷市や浅口市など近隣地域と連携し、星空をテーマにした広域的な繋がりを生み出す。

5 事業の流れ等

(1) 「装置」についての検討会議

デニム、間伐材、頒布など、備中の素材を集め、その生産者やアーティスト、住民が集まって検討し、「装置」のデザインや配置場所を検討。

《「装置」製作に関する参加者の意見》

- ・耐風性があり劣化時の危険がないもの。
- ・基礎がなく持ち運びできるもの。
- ・風景と一緒に撮りたくなるもの。
- ・比較的簡単に増やせるもの。
- ・高梁川流域の地場材を使用したもの。

《検討会議開催実績（計14回開催、参加延人数90）》

- ・5月25日 skype 会議 6名

- ・6月6日 skype 会議 6名
- ・6月17日 ワークショップ 事前会議 7名
- ・6月19日 材料提供、協力のお願ひ（竹井建設）5名
- ・7月20日 skype 会議 6名
- ・8月1日 全体会議 15名
- ・8月2日 材料、塗料の打合せ 4名
- ・8月17日 照明その他機材打合せ 2名
- ・8月17日 ワークショップ 事前打合せ 8名
- ・9月20日 skype 会議 4名
- ・10月3日 配置等打合せ 4名
- ・10月22日 撮影について打合せ 4名
- ・11月20日 改善点の会議 4名
- ・12月2日 全体会議 15名

（2）「装置」づくりワークショップ

【アイデア会議】

美星又は近隣地域の子ども達が、「装置」についてのアイデア出しと、段ボールを使ったミニチュア版「装置」をデザイン、作成した。

日 時：平成29年6月18日

会 場：中世夢が原

講 師：落合守征氏

参加者：井原市及び倉敷市の小・中・高・大学生 24名

【「装置」づくり】

「装置」周辺の装飾部材の塗装、デニム貼り、ミニチュア版「装置」作成、色塗り試作した「装置」の体験

日 時：平成29年8月19日

会 場：美星天文台 星っこ広場

講 師：落合守征氏

参加者：同日開催のAQUA SOCIAL FES 参加者 約120名

（3）お披露目イベント

完成した「装置」の設置とSNSを使った発信プロモーションを行い、会場を訪れた人が、「装置」と風景、「装置」内から見る景色を体験した。「装置」を茶室にみたて、抹茶の提供も行った。

日 時：平成29年10月21日

会 場：中世夢が原 空宙ガールズミーティング会場

参加者：空宙ガールズミーティング来場者 約100名

(4) プロモーション撮影会

写真家の荒木文雄氏による撮影を行った。「装置」を楽しみながら記念に残る写真を撮影。撮った写真は、今後のプロモーションに活用する。

日 時：平成 29 年 11 月 1～2 日

会 場：中世夢が原

参加者：地元の子ども、着物の女性モデル 30 名

6 成果・効果

- ・多くの方がワークショップに参加することで、地域における新たな人の繋がりができた。
- ・新聞やメディアに取り上げられ、美星の魅力と「装置」のある風景を広く発信することができた。
- ・他地域の星空愛好団体へ働き掛けた結果、淡路島二ジゲンノモリで開催されたイルミネーションイベントからの展示依頼があり、県外に向けても美星の魅力と ir.bisei の取組みを P R できた。

7 今後の課題・展開等

・課題

- ・台風で「装置」が大破したことから、保管場所の確保や、荒天時の備えが必要。
- ・お披露目が寒い時期の開催で、当日、雨で気温がかなり下がったことから、開催時期について検討する必要がある。

・展開

- ・更にシンプルで、デザイン性が高く、強度・安全性に配慮した「装置」を製作するための検討を行う。
- ・より多くの地域で、多くの人に体験してもらうよう多方面へ働きかける。

8 県民局が協働した効果及び課題

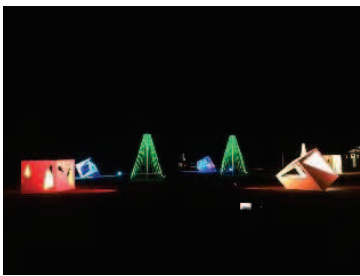
・効果

地域活性化を目的とした県との協働事業であることが多くの報道機関や関係団体に認知され、理解と協力を得られた。

・課題

星空をテーマにした美星の魅力を広域的に発信し、「装置」の貸出等による新たな展開に繋がるよう、更に連携を図る。

9 実施状況

	
ワークショップ（アイデア会議）	ワークショップ（模型づくり）
	
ワークショップ（模型づくり）	イベント会場への搬入
	
「装置」を茶室に見立てて抹茶を提供	星空を見上げる「装置」
	
星空を見上げる「装置」	淡路島でのイベントへ貸出

4 平成29年度 協働事業の概要 No 4

- 1 事業名 : ウィキペディアタウン@備中路
- 2 実施団体名 : 一般社団法人 データクレイドル
- 3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課市町村連携班

4 事業目的・概要

(1) ウィキペディアタウン

備中エリアの町並み保存または伝統的建造物群保存地区でワークショップ型イベント「ウィキペディアタウン」を開催し、備中エリアの町並み保存や伝統的建造物に関するきめ細かい情報を収集して、「ウィキペディア」に掲載することで広く世界に発信する。

(2) ウィキペディアコンテンツ活用アプリ開発

地域の学生が、エンジニアやデザイナーの技術支援を受け、ウィキペディア掲載情報を活用したアプリケーションを試作する「アイデアソン&ハッカソン」を開催する。

5 事業の流れ等

(1) ウィキペディアタウン

実施場所	倉敷市玉島地区	矢掛町	高梁市吹屋地区
実施日	平成29年8月28日	平成29年8月29日	平成29年8月30日
講師	小俣博司先生、小池隆先生（ウィキペディア大山街道プロジェクト）		
掲載情報	玉島町並み保存地区	旧矢掛本陣石井家	旧片山家住宅 吹屋ふるさと村郷土館
参加者	30名	30名	17名
内 容	講義①地域の情報を知る、発信するためのウィキペディア ・ウィキペディアとは、ウィキペディアタウンとは ・オープンデータとウィキペディア、地図情報の共有方法 ★フィールドワーク 講義②ウィキペディアの編集 ・文献調査、記事の作成・編集 ・成果発表（当日投稿・公開）～講評		

(2) ウィキペディアコンテンツ活用アプリ開発

実施場所	データクレイドル データ分析サロン	岡山外語学院	データクレイドル データ分析サロン
実施日	平成29年9月29日	平成29年10月21日	平成30年1月29日
参加者	12名	10名	8名
内 容	学生アイデアソン& ハッカソン（第一弾）	翻訳ワークショップ	ン学生アイデアソン&ハッ カソン（第二弾/成果発表）
	ウィキペディア掲載 情報を活用したアプ リケーション企画	ウィキペディア掲 載情報を英語に翻 訳	ウィキペディア掲載情報を 活用したアプリケーション 試作

6 成果・効果

- ・ウィキペディアに掲載することで備中エリアの町並み保存や伝統的建築物の情報が世界中に公開され、歴史的に魅力ある町並みに興味を持つ観光客の集客が期待される。
- ・ウィキペディアのコンテンツの一部は、DB ペディアを通じて、オープンデータ／リンクトオープンデータとして活用されているため、アプリや人工知能の知識ベースとして二次利用され、情報拡散が期待される。
- ・経験あるウィキペディアンに講義、指導いただくことで、ウィキペディアタウン運営およびウィキペディア編集ノウハウを地域に蓄積できた。
- ・この事業で作成したアプリ「wiki コンシェルジュ for 岡山」がアーバンデータチャレンジ 2017 アプリケーション部門で学生奨励賞を受賞した。

7 今後の課題・展開等

- ・平成 30 年度は総社市（総社商店街筋）、新見市（新見御殿町）でのウィキペディアタウン開催を計画している。
- ・アプリについては、今後のウィキペディアタウン等の実績を加味し、さらなるブラッシュアップを図っていく。

8 県民局が協働した効果及び課題

県民局ではこれまで管内各地の町並み保存団体と交流があり、協働事業実施団体とウィキペディアタウンを開催する地区の団体との橋渡し役を果たすことができた。

9 実施状況



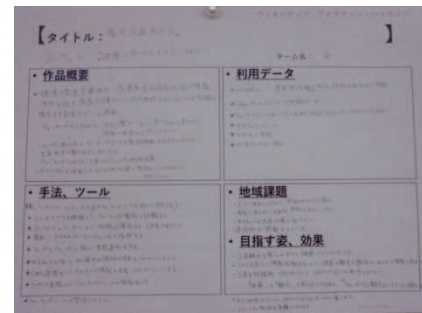
ウィキペディアタウン@倉敷市玉島



ウィキペディアタウン@矢掛町



ウィキペディアタウン@高梁市吹屋



学生アイデアソン&ハッカソン（アプリ開発）

4 平成29年度 協働事業の概要 No.5

1 事業名 : 備中志塾～備中の伝統文化の継承と発展～

2 実施団体名 : 一般社団法人 高梁川流域学校

3 協働担当課 : 地域政策部地域づくり推進課市町村連携班

4 事業目的・概要

備中人としての教養を身につけ「21世紀の備中人」として地域に資する人材を育成することを目的に、民俗学者の神崎宜武氏を講師に迎え、備中の歴史・地理・芸能・旅・食に係る全6回の対面講義を国指定重要文化財である大橋家住宅（倉敷市）で、定員30名の入塾制度を採り入れて実施した。

また、塾生以外からも広く参加者を募っての公開講座を総社市、高梁市、矢掛町、笠岡市で1回ずつ実施したほか、卒塾生の得意分野を活かしたオムニバス講座を2回開催した。

5 事業の流れ等

(1) 対面講義

①開催日及び講義内容 ※（ ）は受講者数

8月25日(金) 古代吉備の風景－遺跡・神話・文化地理（33名）

9月29日(金) 中世の村落と三斎市－吉備高原の道をたどって（30名）

10月27日(金) 備中神楽「吉備津」－実演を通して能とも比較（30名）

11月17日(金) 近世の街道往来－参勤交代・伊勢神宮・芝居興行（24名）

12月15日(金) 年中行事と飲食－備中のまつりと節供を中心に（25名）

1月19日(金) 廿日正月の祝い膳（33名）

②開催時間

18:30～20:00

③会場

国指定重要文化財 大橋家住宅(倉敷市)

④費用

全6回講座 9,000円（テキスト代・茶代込）

※学生 5,000円。第6回は、料理代金 6,000円が別途必要。

※全6回の受講で卒塾証が授与され、備中志塾及び高梁川流域学校が主催する講座やプログラム等に優先的に参加できるほか、企画運営に参加することができる。

※単独参加は 1,500円／1回

(2) 公開講座 備中学のすすめ「備中人としての教養とは」

※ () は受講者数

6月23日(金) 総社市 総社宮 (42名)

7月21日(金) 高梁市 頼久寺 (31名)

8月11日(金) 矢掛町 やかげ町家交流館 (105名)

9月15日(金) 笠岡市 笠岡諸島交流センター (33名)

※いずれも開催時間は18:30~20:00で参加無料

(3) 卒塾生による講座

※ () は受講者数

9月23日(土) 備中の酒蔵 (10名)

1月15日(金) 倉敷観光を考える (5名)

※いずれも開催場所は倉敷市、開催時間は18:00~19:30で参加無料

6 成果・効果

大橋家住宅での本講座6回に加えて、「備中学のすすめ」というエクステンション講座を総社、高梁、矢掛、笠岡で各1回開催し、地域団体の協力を得られ、多くの聴講があった。アンケートの評価も高かった。

また、当事業の計画外のことはあるが、本講座に参加していた金融機関の担当者から社員向けに講座実施の依頼があり、倉敷と総社で各1回実施し、計150人の聴講があった。

当初計画していた卒塾生とのスケジュール調整が出来ず、卒塾生の講座は2回しか実施できなかったが、内容はどれも非常に興味深いものであった。卒塾生の知識、スキルなどをコンテンツ化することで、備中志塾の横のつながりを深めていけるのではないかと。

7 今後の課題・展開等

- ・講師の神崎宣武氏頼みの事業となっている。質を下げることなく氏への負担を軽減できるような方策を講じる必要がある。
- ・備中地域の小中高校へのアウトリーチは、ニーズ調査をした上で講師のレベルチェックも含めて慎重に検討する。
- ・卒塾生の講座は継続的に計画する。卒塾生の横のつながりなど、ネットワークを広げる仕組みを検討する。
- ・事業の広がりに合わせて増大する事務作業に対応できるスタッフが必要である。

8 県民局が協働した効果及び課題

県民局は主に広報面を担当し、また、実施中には適宜助言を行ったが、より綿密に事業の進行管理について関わりを持つべきであったと思われる。

9 実施状況

	
対面講義（大橋家住宅）	備中神楽観賞（大橋家住宅）
	
廿日正月の祝い膳（大橋家住宅）	卒塾生による講座（倉敷市内）
	
備中学のすすめ（総社市）	備中学のすすめ（高梁市）



©岡山県「ももっち・うらっち」